

だれもが安心して、安全に、健やかに、 そしていきいきと生活できる、 より良い地域社会づくり。

ニッセイ聖隷健康福祉財団は、日本生命保険相互会社の創業100周年と

社会福祉法人聖隷福祉事業団の創業60年を記念して、平成元年7月に設立されました。

昭和60年には高齢者(65歳以上)人口比率が10%を突破し、本格的な高齢社会の
到来を告げていました。この年から、高齢社会に向けて国の制度改革や法整備の動きもスタート。

民間活力導入の必要性が謳われ、社会・経済の広範な領域にわたり、高齢化のもたらす
諸問題についての調査研究の充実と、それら成果の速やかな実践が、官民あげての課題となりました。
当財団の設立は、両法人のノウハウを結集して、こうした社会的要請にいち早く応えようとしたものです。

当財団は冒頭に掲げた理念をめざし、これまで奈良県と千葉県において、
厚生労働省の施策『ふるさと21健康長寿のまちづくり事業(通称、WAC事業)』の具体化である
2つのモデル事業を実践しています。また、幅広い調査研究活動や、介護福祉士などの育成のための
奨学金助成を行っています。おかげさまで平成25年4月には、こうした事業活動の公益性が評価され
内閣府から公益財団法人として認定されました。

65歳以上の高齢者人口の割合は、平成25年に4人に1人となり、
平成47年には3人に1人になると予想され、急速な高齢化はますます続くものと見込まれています。
今後、経済環境や高齢者福祉・介護をめぐる環境はますます厳しさを増すと予想されます。
当財団はこれまでの取組みを更に前進させ、
高齢者施設を核とした地域社会づくりに一層貢献してまいる所存です。
引続き皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

日本生命保険相互会社

日本生命保険相互会社は、明治22年の創業以来「共存共栄」「相互扶助」の精神に基づき、生命保険事業の役割をしっかりと果たすための経営を掲げてまいりました。

核家族化や少子高齢化といった社会構造の変化に伴い、人々の生活基盤の安定に対して果たすべき保険会社の役割は、今後、益々重要になってくると考えています。

これからも、生命保険事業は人々の生活を支える社会的な使命を帯びた聖業であるとの信念のもとに、長期的な視点から堅実で健全な経営を貫き、「保障責任の全う」、「お客様の利益の最大化」のために努力を重ねてまいります。



日本生命保険相互会社(本店)

社会福祉法人 聖隷福祉事業団

昭和5年に結核の青年をお世話する一つの病室から始まった聖隷福祉事業団は、充実した医療機関となり、今では生活習慣病予防、人間ドック、労働安全衛生、健康増進等を包括した事業へと発展しました。

また、結核治療後の社会復帰施設から始まった社会福祉事業を含め、1都8県において数多くの事業所・施設を有しています。

社会福祉法人聖隷福祉事業団は、医療、保健、福祉、介護サービスを柱とした、総合的なヒューマンサービスを提供する、日本有数の社会福祉法人です。



聖隷三方原福祉タウン

共同事業

ニッセイ聖隷健康福祉財団は、
日本生命保険相互会社と社会福祉法人聖隷福祉事業団の
共同事業として設立されました。

公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団

設立	平成元年7月4日
基本財産	10億円
運営施設	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 松戸ニッセイエデンの園

